

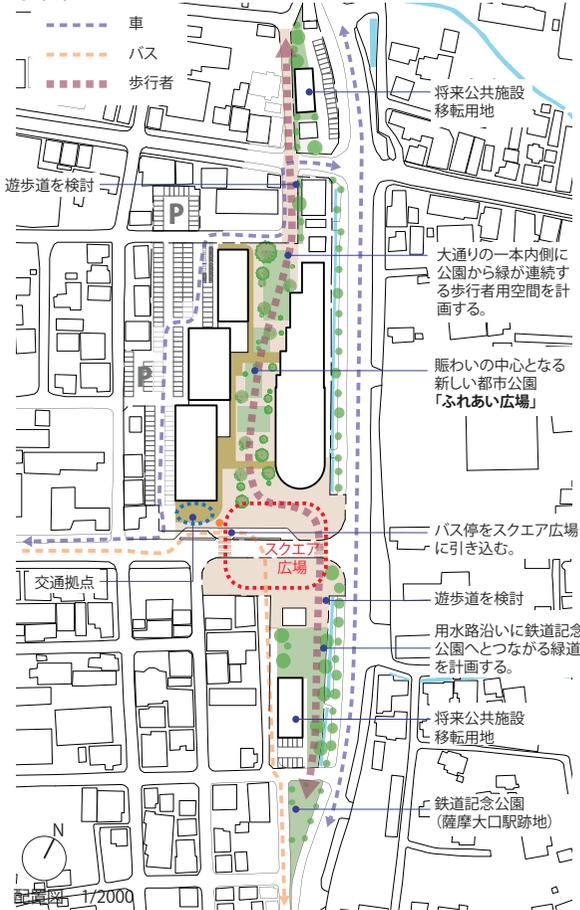
基本方針5) まちづくりの有機的な働きをもたらす庁舎

駅舎としての記憶を継承した線形の公共スペースが、未来のコンパクトシティの骨格となります

●駅舎としての記憶を継承し、ウォークアブルなまちづくりへ

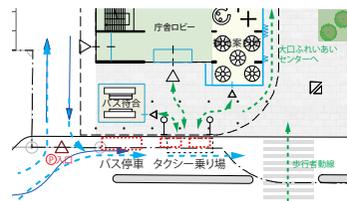
- 元々鉄道に沿って街が形作られていることを生かして、**線形に周囲を繋いでいく公共スペースネットワークを提案**します。
- この南北に長い都市公園とそれに面する新しい庁舎、背を向けていた**大口センターを公園側に開くように改修**することで、**南北に抜けるパブリックスペース**が生まれます。これを延長して、南北に遊歩道を設け、更には**建設地周辺の市有地をネットワーク**していきます。
- 市有地は、緑地や駐車場としての利用だけでなく、お祭りなどのイベントや、**将来的にコンパクトシティを見据えた公共施設の移設用地としての活用も視野**に入れることで、東側167号線の本裏側に歩行者のための公共空間のネットワークが形成できます。
- 少子高齢化の進む街において、このような**ウォークアブルな街の骨格の一端を形成**することで、**賑わいを創出**し、これからの伊佐市のコミュニティの核として地域活性化を促します。

●未来のコンパクトシティ・ビジョン



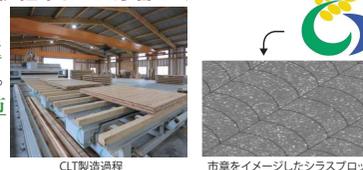
●バス路線や既存の道路交通網を生かした交通の拠点となる施設整備

- スクエア広場にあった**車寄せを拡張し、バス・タクシーなどの交通網の拠点**とします。
- 庁舎の**エントランスに庇を大きく張り出し、バスやタクシーの待合場所を兼ねる**事で、スクエア広場が、新しい交通の拠点として再生されます。
- 更には、エントランスロビー周辺に**街の観光案内なども設ける**事で、**観光の起点**となって活用されます。



●地域産材としてのCLTとシラスコンクリートを利用した伊佐市らしい庁舎づくり

- 庁舎の上層部(2+3階)は、**地場産材を用いたCLT構造とし、地域の製材所で加工可能なモジュールの構造システム**とする事で、地域産業の活性化に寄与します。
- また都市公園の舗装と建物の顔となる立面に、**伊佐市の市章をイメージしたシラスコンクリートのブロック**を用いたデザインとします。



●市民参加型の設計プロセスを通して、まちづくりの担い手を育てる

- 庁舎設計を市民参加型のプロセスとし、WSや報告会、イベント、webでの情報発信などを通して、**将来のまちづくりの担い手を発掘、育成する機会**とします。
- 地域の人が、自ら一緒に**まちの拠点づくりに参加**したという意識を持てるよう工夫します。



行政職員、市民が参加した設計プロセス



●まちの賑わいの中心になる都市公園

- 大口ふれあいセンターと新庁舎から公園へとアクティビティが溢れ出し、賑やかな風景を生み出します。スクエア広場、北側市有地へと賑わいの創出と広がりを図り、**地域活性化につながるよう、未来の伊佐市の中心地**となるオープンスペースとして整備します。

